

# たいとう 青少年委員だより

— 地区懇談会報告号「青少年に豊かな心とより良い環境を」 —

第71号

発行者 台東区青少年委員協議会  
台東区

編集者 台東区青少年委員協議会  
広報委員会

発行日 令和6年10月18日

## 第1ブロック



学校教育および社会教育における音楽の役割  
～演奏家の視点から～

## 第4ブロック



「多様な社会」を生きる子を育てための  
コミュニケーション

## 第2ブロック



台東区青少年委員協議会  
第2ブロック地区懇談会  
児童虐待における現状と課題

## 第5ブロック



防災について  
～HUG体験～

## 第3ブロック



第3ブロック地区懇談会  
これからの社会を担う青少年とどうかかわるか  
～昭和・平成・令和の学校を見て来て思うこと～

## 第6ブロック



多文化共生  
～ちょっとした気づきから地域が変わる～

日頃より台東区青少年委員協議会にご支援いただき、心より感謝申し上げます。私たち青少年委員は6つのブロックに分かれて丸となって活動しておりますが、今回行われたブロック地区懇談会のように、それぞれの活動も行ってまいります。

今回は6月下旬から7月中旬にかけて開催され、各ブロックで講師をお招きし、教育関係者や保護者、地域の皆様など多くの方々にご出席いただきました。

懇談会のテーマは、青少年の育成に関わることや、青少年に限らず私たちを取り巻く課題など多岐にわたっており、講師の皆様も教育関係者をはじめ、地域でご活躍されている方々など、さまざまな方面の皆様にご協力いただいております。懇談会では、講師の皆様の講演をお聴きし、ご出席いただいた皆様のお考えや経験なども伺うことができます。

課題を解決するための答えを導くことも重要ですが、一方で、画的に答えを出して先に進むことよりも、視野を広げて多くの情報に触れていただきたいという思いもあります。私たちは、この懇談会が互いの知見を広げ、それぞれの現場の今後に少しでも反映されることを願っております。

改めまして、ブロック地区懇談会の開催にあたり、講師の皆様をはじめ、ご協力・ご出席いただいた皆様に心より御礼申し上げます。



台東区青少年委員協議会  
会長 生駒 秀二

ブロック地区懇談会の開催

## 第1ブロック

(大正・東泉・金曾木小学校、柏葉中学校、  
入谷・金杉地区)

学校教育および社会教育における音楽の役割  
～演奏家の視点から～

講師：オペラ歌手 栗田 真帆 氏 ギター 竹内 永和 氏  
ピアノ 比留間 千里 氏

### 1 日 時

7月3日(水) 午後6時30分～午後8時30分

### 2 会 場

金杉区民館 下谷分館 1階ホール

### 3 出席者

学校等(こども園、幼稚園、小中学校)園長・校長ほか、各校PTA会長ほか、コミュニティ委員会、区民事務所・地区センター所長ほか、青少年育成入谷地区委員会委員、児童館館長、各町会 会長ほか、下谷郵便局長、各連合町会 会長ほか、主任児童委員、国会議員、都議会議員、台東区議会議員、青少年委員、事務局 計73名

### 4 司会者

遠藤 典男(青少年委員)

### 5 式 次

開会の辞：庄司 智哉(青少年委員)

挨拶：西 郁朗(青少年委員協議会副会長)

### 6 内 容

#### ◆第1部「日本のうたって？」

日本のうたは、和風音階を基にしており、「音」は声楽、「楽」は楽器を指していました。

明治時代には音楽教育を向上させるために翻訳唱歌が誕生し、教科書に載せるための曲：「荒城の月」や、音階を優しく教えるための曲：「赤とんぼ」などが作られました。

こうして唱歌はイデオロギーを育んできましたが、ラジオ放送の開始や、絶対音感教育の導入により、学校唱歌は次第に衰退し、戦後には儀式用の唱歌も見直されてしまいました。



うたは生活において重要な役割を果たしています。行事で集まった際に、子どもたちが気軽に口ずさめる“うた”を広めることができるのは、社会教育の良い点

で、昔の曲を現代の子どもたちが自由にアレンジして、歌い継いでいくことを期待しています。学校教育は免許制で教える人が限られていますが、社会教育では誰でも教えることができるからです。

戦後、音楽を嫌いになった子どもたちに、素直な心を取り戻してほしいという願いから作られた曲『かなりや/西條八十(作詩)』の時代が、今再び訪れているように感じます。

現在 学習指導要領では、「音楽は本来芸術であるから目的であって手段となり得るものではない」という観点から、音楽教育は情操教育として位置づけられていることと、かつての「スプートニック・ショック」の影響により、科学技術教育の充実が最重要課題となっており、中学校の音楽科の必修時間確保が危機に瀕していることが課題となっています。

しかし近年では、南米のエル・システマや日本の合唱コンクールの効果から、音楽科の重要性が再認識されてきています。

青少年育成は、学校教育だけでは難しいため、社会や家庭教育を通じて、うたに触れていくことが大切であると思います。



#### ◆第2部「オペラとミュージカルのお話・世界の音楽」

このセッションでは、『フィガロの結婚』より「恋の悩み知る君は」や、『カルメン』より「恋は野の鳥(ハバネラ)」などを、実演奏を交えながら、分かりやすく解説をして頂きました。

また、出席者全員で「蚊のカノン」を合唱する場面もありました。最後には、出席者から「声楽家を目指した理由」や「歌い方について」の質問、さらに「曲のリクエスト」が寄せられました。

### 7 青少年委員の感想

今回の地区懇談会は、地元、金曾木小学校出身のオペラ歌手 栗田真帆氏に講演をお願いした事で、学校関係者のみならず、地域の皆さんにも多数のご出席いただきました。

「学校教育」「社会教育」「家庭教育」それぞれの立場から、改めて音楽の役割を再認識してもらえた会になったと思います。

また、講義を聞くばかりでなく、生演奏あり、出席者との合唱もありと、会場が、終始和やかなムードになったことから、「音楽の影響」を実感することが出来ました。  
(岡本 俊夫)

## 第2ブロック

(根岸・谷中・忍岡小学校、忍岡・上野中学校、谷中地区)

### 児童虐待における現状と課題

講師：油木 鉄兵 氏

#### 1 日時

7月8日(月) 午後6時30分～午後8時

#### 2 会場

根岸小学校会議室

#### 3 出席者

各小中学校校長・副校長、各校PTA会長・副会長・役員、谷中児童館・池之端児童館館長、谷中地区主任児童委員、西部区民事務所谷中分室所長、民生委員、青少年育成谷中地区委員会青年部副部長、元青少年委員、青少年委員、事務局 計34名

#### 4 司会者

森 加奈子(青少年委員)

#### 5 式次

開会の辞：田巻 賢一郎(青少年委員)

ブロック長挨拶：渡邊 真人(青少年委員)

副会長挨拶：西 郁朗(青少年委員)

閉会の辞：遠藤 孝一(青少年委員)

#### 6 内容

この度の講師を務めてくださった油木鉄兵氏は、現台東区立小学校PTA連合会会長であり、立教大学コミュニティ福祉学部卒業、児童福祉を中心に学び、卒業後は児童養護施設二葉学園に勤務されており、児童虐待について大変有意義なお話をお聞きすることが出来ました。

児童虐待とは、保護者(親または親にかわる養育者)が子供の心や身体を傷つけ、健やかな発育や発達に悪い影響を与えることを指し、法律では4種類に分類されている。

①身体的虐待②心理的虐待③ネグレクト④性的虐待  
なぜ、虐待が増えているのか

① 核家族化や、経済の悪化、DVの増加など虐待そのものが増えている

② 虐待に対する、法律が徐々に整備されてきている

③ 虐待に対し、国民の関心が高まってきているなどのことがあげられるようだ。

様々な背景や、影響により虐待が増えている現状を知れた。

虐待から子供を守る仕組みとして関係機関の体制強化や様々な啓蒙活動、子育て拠点の設置、児童虐待発生時の迅速・的確な対応についても学びました。



また、児童相談所の援助内容や養育家庭(里親)、その他の支援事業について、児童福祉法改正ポイントについても御講義いただきました。

「どこまでがしつけ?どこからが虐待?」

「子供の叫びに耳を傾けられている?」

「デートDV、不同意性交、性にまつわる課題」

などから虐待を解決していくためには地域として、PTAとしてどうしたら良いか、子供のSOSを受け入れられる大人ではどうしたら良いのかなど、お話を聞きながら参加者みんなで考えました。

#### 7 青少年委員の感想

普段の地域活動やPTA活動などでは知り得ない児童虐待の実態を知ることが出来た。

『いつでも、なんでも相談してね』だけではSOSは受け取れないというお話から、対応の難しさを感じました。

想像力を働かせること、目の前にいる子供が傷ついているかもしれないとイメージすること、自分の経験や色眼鏡で判断・決定しないこと、自分自身が、繋がりを持つことの大切さを学ぶことが出来ました。

これからの青少年委員活動や参加者の皆さん、それぞれの立場での活動に生かせる大変有意義な会でした。

(渡邊 真人)



## 第3ブロック

(平成・黒門小学校、御徒町台東中学校、  
竹町・東上野・上野地区)

これからの社会を担う青少年とどうかかわるか  
～昭和・平成・令和の学校を見て来て思うこと～  
講師：台東区立黒門小学校 前校長 石田 隆 先生

### 1 日時

7月9日(火) 午後6時45分～午後8時15分

### 2 会場

上野区民館 401集会室

### 3 出席者

各小中学校校長・副校長、台東・東上野保育園園長、  
各校PTA(育ての会)会長・副会長・役員、台東児童  
館館長・リーダー、各地区主任児童委員、各地区セン  
ター所長、青少年委員、事務局 計30名

### 4 司会者

中川 晴人(青少年委員)

### 5 式次

開会の辞：中川 晴人(青少年委員)

挨拶：江川 悦子(青少年委員協議会副会長)

閉会の辞：生駒 秀二(青少年委員協議会会長)

### 6 内容

台東区立黒門小学校の前校長先生であり、長年にわたり台東区の教育活動にご尽力頂いている石田隆先生をお招きして、第3ブロックの地区懇談会が行われました。



#### 「先生の略歴」

テレビドラマ「熱中時代」を見て教員を志す。昭和61年大田区大森第一小学校に赴任、パナマ日本人学校、江東区の学校を経て、平成21年に黒門小学校副校長として台東区の学校に着任。その後、千束小学校・千束幼稚園の校長を経て黒門小学校校長となり、昨年度をもって定年退職された。現在は生涯学習センターにて研修支援専門員として、幼稚園から小学校への円滑な移行を支援するための業務を推進中。

「青少年と関わるにあたりこんなことを意識してみるといいかもしれま10(テン)」と題して、我々青少年と関わる大人が大切にすべきポイントを教えて頂きました。

◆地域行事は子供の大事な冒険の場であることを自負すべし

冒険の場と安心の場を行き来できることで、子供達は成長していく。どちらの場もとても大切である。

◆子供や地域のことをよく知っているなどと思わせよ

例えば、できるかぎり名前を覚えて名前と呼んであげる。保護者や学校の先生にも積極的に声を掛けて欲しい。

◆これまでの子供との関わり方を振り返って考えよ

子供と接するとき、それが目的にかなった指導になっているか。子供にネガティブな気持ちを抱かせていないか? 家庭に限らず安心の場を築いてあげることが大事。

×：体罰は勿論、暴言、嫌味な言い方(マルトリートメント)

○：選択権を与える、具体的な指示にする

◆自分の思考の枠が固まっていないか振り返ってみよ

例えば「子供がちゃんとできない」などはよくある悩みだが、「ちゃんと」って何ですか? 人と違っていてもよいし、“常識”に捕らわれ過ぎず色々な視点を持つ。

◆色々な立場の人と心地良い関係を作る手本となるべし

色々な人との繋がりが楽しいんだよという事を子供に伝えていく。教育者は感情労働=人の感情を動かす仕事をしている。そのためには、自分の感情のコントロールも大切。

◆気の置けない仲間、横の繋がりに感謝し大切にせよ

出会いは奇跡。縁あって出会った者同士の繋がりを大切に、それを子供達にも見せて欲しい。

◆たまには「不適切にもほどがある」事もやってみよ

大人も時には羽目を外して楽しんだり、その姿を子供にも見せる。もちろん自分で責任が取れる範囲で。

◆家族、家のことを大切にせよ

以上のことも、家族があってこそそのもの。自分の家族を大事にしないと元も子もない。

◆健康に気をつけよ

全てはまずは健康があってのもの。血圧や体重を記録したり、飲まない日を作ったりするのも良い。

◆人生に無駄なしと思うがよい

気に入らない状況での仕事、嫌な思いや、辛いときも、後になってその経験が役に立つときが来る。

### 7 青少年委員の感想

平易な言葉で解りやすくお話しいただき、なるほどと思うことばかりでした。先生のお話から、愛情や情熱はもちろん、我々が一つ一つの行動や役割を考え、振り返りながら日々アップデートし精進していくことが大切である事を理解することができました。

(宗像 良延)

## 第4ブロック

(東浅草・富士・千束・石浜小学校、桜橋中学校、馬道・清川地区)

「多様な社会」を生きる子を育むための  
コミュニケーション

講師：一般社団法人 共生と共育ネットワーク  
代表理事 木村 尚文氏

### ① 日時

6月28日(金) 午後6時30分～午後8時

### ② 会場

生涯学習センター 301研修室

### ③ 出席者

各小中学校校長・副校長、各校PTA会長・副会長、馬道地区主任児童委員、清川地区主任児童委員、玉姫児童館館長、今戸児童館館長、千束児童館館長、青少年委員、事務局 計29名

### ④ 司会者

柴田 昌彦(青少年委員)

### ⑤ 式次

挨拶：生駒 秀二(青少年委員協議会会長)

閉会の辞：柴田 昌彦(青少年委員)

### ⑥ 内容

思春期の子供は大人へ向けて自我を探り、自立を求め続けている。

親や先生に対し、感情を抑え、無関心を装う思春期の子供達とどのようにコミュニケーションをとっていけばよいのか。

コミュニケーションは「心」「想い」「考え」を交し合うものであり、お互いにそれらをキャッチボールすることが大切であり、投げっぱなしのドッジボールになってしまってはいけない。



親は否定するのではなく、聞く耳を持ち、子供に対し「自分の思っていることを受け止めてもらえる」「聞いてもらっている」という心理的安心安全な環境づくりをすることが必要であり、それが子供の安心感・自己肯定感につながっていき、子どもが素直に自身の内面を自己開示できるようになる。

変化・多様化の激しい、絶対的正解のない社会で求められる失敗を恐れずチャレンジしていく力、つまり「生きる力」を養うには、心理的安心安全な環境の中で自己肯定感を育まなければならない。



自己イメージは他者からの評価の交流の中で形成され、親や先生・友人からの影響が大きい。

ありのままの子供の姿、良いところも悪いところも認めて共感することが必要である。

親の思い、感じ方・考えを伝えるとき、行動の判断は子供に委ねるIメッセージを送ることが大事であり、それが社会で求められる、主体的に考え・判断し・実践する行動へとつながる。

生きるためのマニュアルがないこの時代、親も変化・多様化の激しい、絶対的正解のない社会を学び続け、大人として実践する背中を子供に見せることが大事である。

### ⑦ 青少年委員の感想

親として、子供との向き合い方は、難しいものでもあり、大切な事でもあります。

今回の懇談会では、「社会で求められる力」「生きる力」をつけるため、子供を否定しない、自己肯定感を高めるコミュニケーションの取り方を学ばせていただきました。

自分に置き換えると、普段からもっと子供達の力を引き伸ばせるような場面もあったなと考えさせられました。

決めつけではなく親の気持ちを伝え、考え、行動は子供自身に委ねるといったところが、大変勉強になる講演でした。

一人でも多くの子が社会で活躍できるよう、私達も学び続けていかなくてはならないと実感しました。

(柴田 昌彦)

## 第5ブロック

(上野・浅草・松葉・田原・金竜小学校、駒形中学校、雷門地区)

防災について  
～ HUG 体験 ～

協力：台東区 危機・災害対策課

### 1 日時

7月4日(木) 午後6時～午後8時

### 2 会場

生涯学習センター 301研修室

### 3 出席者

各小中学校校長、各校PTA会長・副会長・役員、青少年育成雷門地区委員会委員、雷門地区各町会長・町会役員、前青少年委員、雷門地区センター副所長、危機・災害対策課、青少年委員、事務局 計51名

### 4 司会者

岡田 一央(青少年委員)

### 5 式次

開会の辞：岡田 一央(青少年委員)

挨拶：小河原 左知子(青少年委員協議会副会長)

閉会の辞：岡田 一央(青少年委員)

### 6 内容

今年度5ブロック地区懇談会は防災意識を高めることを目的として台東区危機・災害対策課にご協力いただき「避難所運営ゲーム(HUG)」体験を実施いたしました。

HUGとは、参加者が避難所を運営する立場になり、想定されるさまざまな課題をクリアするための対処法を考えるシミュレーションゲームです。

5ブロックでは過去にも地区懇談会でHUG体験を実施したのですが、今回はより一層身近な体験となるよう発災時に実際の避難所となるブロック内の各学校の平面図を使用して行いました。また今回は実際に避難所運営委員を務められている町会長や町会役員の方々の参加もあり、より一層リアルな体験となりました。

学校(避難所)ごとに分かれ、軽い自己紹介で気持ちをほぐした後、各校選出の青少年委員がゲームの進行役となりカードを引きます。「避難者カード」が出た場合は、カードに記載されている避難者の情報(年齢・性別・国籍・被災状況・世帯情報・持病など)を元に、避難所内のどの場所に受け入れるか、参加者で意見を出し合い平面図に配置していきます。また時折混ざる「イベントカード」には避難所で起こりうるさまざまな出来事やトラブルなどが記載されています。

備蓄品の管理・活用、配慮や支援が必要な避難者への対応、旅行者など帰宅困難者への対応、ペット同伴問題、トイレが使用できなくなった時の対応、洗濯物を干す場所やゴミの分別・集積場所など、さまざまな問題に対して意見を出し合い対応を考えました。



ゲーム終了後、避難所ごとに避難者受け入れやイベントにどのように対応したか、またHUGを体験してみて気付いた点の発表をしていただきました。

校舎の形状の違いはあれども、各避難所で共通していたのは、避難者の受け入れ窓口となる受付の重要性、昨今区内で多く見られる外国人旅行者に対する対応、そして何より発災時は平時では思いもつかないようなことが起こる可能性があるため、さまざまな事象に対するマニュアル、そして準備や訓練の必要性があるとのことでした。

危機・災害対策課からは、避難所を運営するうえで何か困りごとや解決できないことが出てきた場合は、防災行政無線を活用して区役所に設置されている災害対策本部に問い合わせをするようレクチャーしていただきました。

### 7 青少年委員の感想

今回もほとんどの参加者が初めての体験とのことでしたが、HUGは少しの説明を受けるだけで誰でも避難所運営の疑似体験が出来る非常に有益な訓練だと感じました。

HUGには100%の正解は無く、参加者それぞれが避難所運営に関してどのように考えたかが重要とのこと、機会があれば小中学生を含むたくさんの方に体験して頂き、自ら考える能力を養い、自助・共助・公助の連携の大切さを感じて頂きたいと思います。我々青少年委員は家庭・地域・学校の懸け橋となれるよう活動していきたいと改めて感じました。(岡田 一央)



## 第6ブロック

(台東育英・蔵前小学校、浅草中学校、  
浅草橋・浅草寿地区)

### 多文化共生

～ちょっとした気づきから地域が変わる～

講師：文化庁地域日本語教育コーディネーター  
多文化共生コーディネーター 山藤 弘子 氏

### 1 日 時

7月12日(金) 午後6時～午後7時30分

### 2 会 場

浅草橋区民館4階 多目的ホール

### 3 出席者

各小中学校校長・副校長、各校PTA会長・副会長、  
ことぶきこども園副園長・PTA副会長・役員、南部  
区民事務所副所長、浅草橋地区センター所長・副所  
長、寿児童館児童館館長・台東児童館副館長、主任児  
童委員、各地区青少年育成委員会リーダー・サブリー  
ダー、前青少年委員、青少年委員、事務局 計25名

### 4 司会者

代田 貴信(青少年委員)

### 5 式 次

開会の辞：代田 貴信(青少年委員)

挨拶：生駒 秀二(青少年委員協議会会長)

閉会の辞：江川 悦子(青少年委員)

### 6 内 容

山藤氏を講師に、実演アシスタントとしてケイ ハジ  
さんをお迎えし、実例を交えてワークショップやグルー  
プ討議を多く取り入れて実施しました。



#### ◆台東区における外国人居住についての現状

最初に山藤氏から現状の基本的なデータ(在住外  
国人の比率や国籍、在留資格の種類、年齢など)を伺  
いました。

人口比率は東京都の中で4番目、定住の意向が高  
いなど、何となく感じていたことを具体的な数字で知  
ることができました。

#### ◆実例

定住している外国人は日本語での会話ができる方  
も多いが文化の違いから意思疎通は容易ではないと  
いう場面について山藤氏とケイさんに実演をしてい  
ただきました。日本人は言葉の裏にある意味や雰囲気  
を察しますが、外国人には社交辞令のようなことはなく、  
会話は思ったことをそのまま伝えていると伺いました。  
また、口調や表情も日本人が感じる感情表現とはかな  
り違うことを知りました。



#### ◆グループワーク

「やさしい日本語」という表現について、グループで  
話し合ったり、意見を出し合ったりしました。公共の場  
所の掲示物や学校からのお知らせの表記を「やさしい  
日本語」に変えるとどうなるかを考えることにより、具  
体的で身近な問題と実際の対応について、気づき、考  
える時間を持ちました。

#### ◆参加者から

現代の地域や学校などの日常において大切な課題  
で、理解を深めることができました。

「やさしい日本語」を使うことも大事ですが、外国人  
にとっては、正しい日本語で接することが習得する機  
会になると思います。

実演により、実際の文化の違いを感じ取ることがで  
きました。

今後、地域で接する機会がある時には自分自身が  
少し変われるように思いました。

### 7 青少年委員の感想

観光客ではない外国人がかなり多いという漠然と  
した意識でしたが、現在の課題やそれに対する活動を  
地域の皆さんと共有できたことが一番良かったと感じ  
ました。

勉強になった、気づきがあったという声を多くいた  
だきましたが、コミュニケーションは日本人同士でも簡  
単でない場合もあります。相互理解を深め、地域で気  
持ちよく暮らすことの一助になればと思いました。

(徳坂 小夜)

# 台東区青少年委員協議会

## 活動報告（令和6年度）

桜橋・わんぱくトライアスロン（協力事業）

期日：令和6年8月25日（日） 場所：台東リバーサイドスポーツセンター



## 今後の予定

| 期 日             | 活 動 内 容                       | 場 所                     |
|-----------------|-------------------------------|-------------------------|
| 令和6年11月23日（土・祝） | 小学生対象事業<br>「親子ふしぎ発見塾～作って遊ぼう～」 | 台東区役所10階                |
| 令和6年11月30日（土）   | ミニ講座                          | 日本オリンピック<br>ミュージアム（新宿区） |
| 令和7年1月13日（月・祝）  | 二十歳の集い<br>（協力事業）              | 浅草公会堂                   |
| 令和7年1月25日（土）    | 中学生対象事業<br>「中学生サミット」          | 台東区役所10階                |
| 令和7年2月16日（日）    | 管外研修                          | 横須賀方面                   |

facebookページ

facebook 台東区青少年委員協議会 検索



台東区ホームページ 青少年委員紹介ページ

台東区青少年委員 検索



台東区青少年委員協議会事務局（子育て・若者支援課内）  
〒110-8615 東京都台東区東上野 4-5-6 台東区役所 6F  
TEL 03-5246-1341 FAX 03-5246-1289